

A vibrant rainbow lorikeet with a blue head, orange beak, and green body with yellow and red accents is perched on the head of a young person with dark skin and curly hair. The person is looking upwards and to the right. The background is a soft, out-of-focus green.

VANUATU

バヌアツガイドブック

刊行にあたって

本書は太平洋諸島センターの活動対象となっている太平洋島嶼国14カ国・2地域のうち、バヌアツ共和国に関する観光情報をできるだけ詳しくまとめたものです。また、同国をできるだけ深く理解して頂くために、観光情報以外にも同国の歴史、経済、社会等についても紹介しています。

バヌアツ共和国は、過去の植民地時代に長い間英国とフランスの統治下にありましたが、現在でも伝統的な首長による統治が続いており生活の重要な規範となっています。島々はもちろんのこと各地域でも言葉、冠婚葬祭の習慣、社会のシステムがそれぞれ異なり、その多種多様な文化は英国とフランス文化と共存し、互いに影響しあって、「和」を大切にする独特の文化を育んでいます。また、同国にあるペンテコスト島の「ランド・ダイビング」は「バンジー・ジャンプ」の基になったことで良く知られています。

統計によれば2018年バヌアツを訪れた人は、115,634人(2018 Annual Visitor Report, SPTO)ですが、そのほとんどがオーストラリア、ニュージーランドからで、日本人の認知度は未だ低いのが現状です。

本書が日本におけるバヌアツについての関心と理解を深め、これから同国を訪問されようとする方々の参考となれば幸いです。

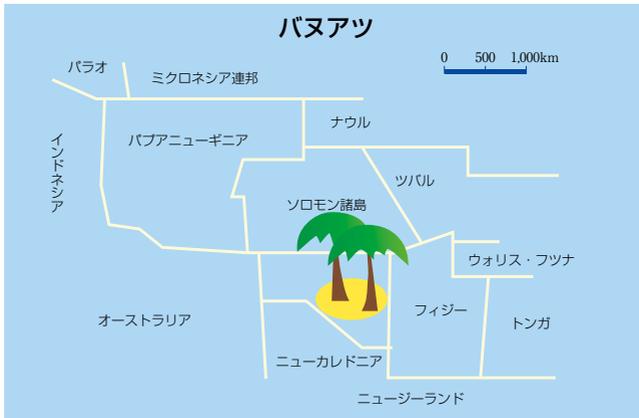
2020年12月

国際機関 太平洋諸島センター

バヌアツ



正式国名	バヌアツ共和国 (Republic of Vanuatu)
面積	12,190平方キロメートル (新潟県とほぼ同じ大きさ)
人口	292,680人 (2018年、世界銀行)
首都	ポートビラ (Port Villa)
民族	メラネシア系99%, ヨーロッパ系他1%(1999年、バヌアツ統計局)
主要言語	ビスラマ語 (ピジン英語)、英語、仏語 (いずれも公用語)
宗教	人口の約83%がキリスト教
政体	共和制
1人当りGNI	3,130米ドル (2018年、世界銀行)
通貨	バツ (Vatu=VT)
電話の国番号	(678)+(相手先の番号)



目次

バヌアツ共和国の概要	2
首都ポートビラとエファテ島	18
エスピリッツサント島 (通称「サント島」) とルーガンビル	31
タンナ島	41

バヌアツ共和国の概要

バヌアツ共和国はオーストラリアのケアンズの東約1,800kmに位置し、80あまりの島々が南北約1,200kmにわたって広がる群島国。1980年7月、74年間の英国とフランスの共同統治から脱し独立した。国名のバヌアツは「我々の土地」を意味するが、それまではニュー・ヘブリデス島として知られていた。この島々の雰囲気はスコットランドのヘブリデス(Hebrides)と似ていることから、1774年にキャプテン・クックによって命名されたと言う。

バヌアツ共和国の土地面積は12,189平方kmで新潟県とほぼ同じである。2020年現在の総人口は307,649人で、毎年2.5%前後の推移で増加し続けている。中心となるニュー・ヘブリデス諸島のほかにバンクス諸島とトレス諸島があるが、80余の島々の大半はニュー・ヘブリデス諸島に属している。トレス諸島の直ぐ北にはソロモン諸島がある。

首都ポートビラがあるエファテ島の面積は900km²で佐渡よりやや大きく、ポートビラには総人口の11.7%にあたる35,901人が居住している。ポートビラはバヌアツの空の玄関口で、人々は親しみを込めて短く「ビラ」と呼び、また、バヌアツ最大の島エスピリッツサント島(以下サント島と表記)も「サント」と呼ばれている。



バヌアツの歴史

4万年ほど前、西太平洋の人々の祖先であるオーストラロイドが東南アジアからインドネシアやニューギニアを経由してオーストラリアやソロモン諸島に移動してきた。その後、東南アジアからの新しい移動の波がソロモン諸島を越えてバヌアツに辿り着いたのは紀元前3000年頃で、この人々がバヌアツのメラネシア人の祖先となり、さらにニュー・カレドニアやフィジーに向かって進んでいった。現在のところバヌアツで発見された最古の定住跡は紀元前1400年頃のものである。人々はラピタ文化に属しており、パプアニューギニアからサモアまでの広い範囲で特有の陶器類が発掘されている。

11世紀から15世紀にかけては東からのポリネシア人の大移動があり、異なった生活習慣や技術がもたらされた。従来から居住していた人々は森の中に集落を作り、新しく移住してきた人々は浜辺近くに集落を作った。部族間の土地や農作物に関しての争いが頻繁に起こり、首狩りの習慣も



ラピタ土器

20世紀まで残っていたと言う。

●ヨーロッパとの接触

1606年5月、ポルトガル人航海家ペドロ・フェルディナンド・キロスが率いる一隊がスペインの命を受けサント島に上陸して領有を宣言したが、乗組員の反乱もあり、約50日後にこの地を去った。その162年後の1768年、フランスの貴族ルイス・ブーガンビルがマエウォ島とペンテコステ島を発見している。次いで1774年7月には当時はまだ中佐であったキャプテン・クックが、タンナ島をはじめ全ての大きな島々を発見した。1789年にはバウンティ号の反乱で知られるキャプテン・ブライがバンクス諸島を発見したことが記録されている。

●貿易商と宣教師

1825年にアイルランドの探検家ピーター・ディロンがエロマンガ島で多量の白檀の木を発見したことがきっかけとなって、中国への輸出を狙ってヨーロッパ人貿易商の入植者が増加。並行してキリスト教の布教活動が活発化した。白檀の中国への輸出は1860年代後半まで続いた。

●疫病と2国統治の時代

1800年代に入ってからヨーロッパ人との接触によって、ハシカやインフルエンザ、肺炎、猩紅熱、おたふくかぜ、水疱瘡、百日咳、そして赤痢などがこの島々の人々を襲い、人口が急激に減少、20世紀始めまでには10万人までになったと伝えられている。

また、1870年代になるとフランスの進出が目立つようになり、農園経営に関して英国との関係が緊張、1886年にはフランス軍がエファテ島の北西ハバナ港に上陸した。英仏の利権争いはますます激しさを増し、1906年の最終協議によって英仏2国によるニュー・ヘブリデス諸島の共同統治が開始された。法律の異なる2国統治は当然のように混乱を招いた。2つの法律、2つの警察、2つの刑務所、2つの通貨、2つの教育システム、2つの医療システムを持つ奇妙な社会は、1980年の独立まで続いた。

●終戦から独立へ

旧日本軍が隣国のガタルカナル島まで南下したことから、アメリカ軍はエファテ島とサント島に前線基地を置いた。主力基地となった人口1万人ほどのサント島には10万人の兵員が送り込まれたという。

1945年の終戦によってアメリカ軍は引き上げたが、1942年5月にアメリカ軍が基地を置いてから約3年間、現地の人々



サント島での軍事演習

は白人も黒人も差別無く兵役に就いていたのを見てきた。これは英国とフランスの支配に慣れてきた人々に独立への希望を植え付けることにもなったが、二国による支配は住民間に複雑な感情を植え付けていた。イギリスが独立を支援する動きを見せると、フランスが性急な動きを牽制、一部の住民はバヌアツ人よりフランス人であることを欲した。第二次大戦の終結後に多くの国が早い時期に独立を達成する中で、バヌアツが二国による特殊な支配から独立したのは1980年になってからであった。

◆必見コラム ～日本人の存在「亀獲り名人 伊東政吉」～

今から約100年ほど前、1900年の初期にバヌアツに日本人が住んでいたらしい。エビ島本島から目視できるほどの位置にあるラーメン島という小島に、なんと日本人「伊東政吉」さんのお墓がある。ラーメン島にたどり着いた経緯や理由などは謎だが、五島列島出身、ウミガメ獲りの名人だったという。伊東さんから教えられた日本の歌を現在でも歌える島民もいる。



地理

バヌアツは南北約1,200kmにわたって比較的大きな13の島と70あまりの小さな島がY字の形に連なっている。北端のトレス諸島からソロモン諸島までは約170km、南端のアナイチョム島とニュー・カレドニアは約200km、東にはポートビラから約800km離れてフィジーのビチレブ島があり、西には1,800kmほどはなれてオーストラリアのケアンズがある。

80余りの島々のうち人が生活している島は限られ、最大の島は4,010km²のサント島、次いで2,069km²のマレクラ島、3番目が980km²のエファテ島、4番目が900km²のエロマンガ島と続く。

バヌアツは日本と同じく環太平洋火山帯に属し、現在も9つの火山が活動中で、そのうちの2つは海底火山であ



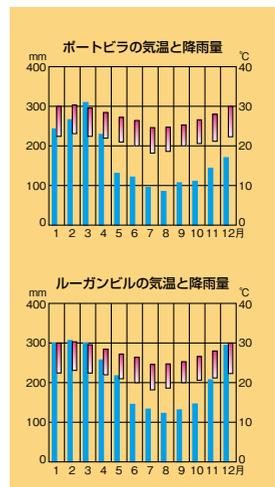
タンナ島のヤスール山

る。バヌアツの最高峰タベマサナ (Mt. Tabwemasana) はサント島にある。ほとんどの島が起伏の激しい山並みを持ち、豊かな森林で覆われている。

気候

バヌアツは南部が亜熱帯、北部が熱帯気候に属し、11月から4月までの夏季(雨季)は高温多湿で、6月から9月の冬季(乾季)は乾燥した比較的涼しい晴天が続く。熱帯気候に属する島では年間降雨量が4,000mmを超える。

首都ポートビラは1月から4月に雨がが多く、特に3月は300mmを超える。最も少ないのは8月で平均80mmほどである。12月から2月は30℃まで気温が上がるが、冬季は20℃を下回ることもある。夏場はサイクロンの季節でもあり、1987年サイクロン・ウマ、2015年サイクロン・パムがエファテ島に上陸し、さらに2020年にはサイクロン・ハロルドがサント島を直撃した。これらのサイクロンで多くの草木がなぎ倒され、家屋も崩壊するなど甚大な被害を与えた。





サイクロンで壊された学校

政治体制と内政

バヌアツは大統領を元首とする共和制で、行政の実権は首相にある。議会は1院制で議席数は52、任期4年。内閣は議員の中から首相の指名によって選ばれる。このほかに部族の首長で構成される評議会があり、伝統的な習慣と憲法の問題に関して議会にアドバイスを行う。

外交的にはパプアニューギニアやソロモン等のメラネシア諸国との連携強化、非同盟主義、反核運動の推進を掲げている。

内政面では、過去、英国とフランスによる共同統治が行われてきたが、1980年独立し、初代首相には独立運動のリーダーであったウォルター・リニが就任した。その後、英語系の国民連合党(NUP)と仏語系の穏健政党連合(UMP)が政権争いを繰り返し内政は不安定な状況が続いたが、1995年の総選挙で両派の連立政権が成立して関係は幾分修復された。

近年では2016年から4年間続いた統一運動グループ(RMC)率いるシャーロツ

ト・サルワイ政権の任期満了に伴う総選挙が2020年に行われた。この総選挙では政党が乱立していたため一党が議席過半数を確保することができず、野党が連合を組み政権を奪取した。ポブ・ロウマン率いるヴァヌア・アク党(VP)を中心に連立政権が組まれ、政権交代が行われる形となった。

経済

これまでのバヌアツ経済はタロイモやヤムイモが中心の自給自足農業とコブラの輸出が中心で、恒常的な輸入超過による貿易赤字を外国からの援助で補填してきた。

1997年半ばよりアジア開発銀行(ADB)とオーストラリアを中心とする援助国の協力の下、大規模な行政・経済改革「包括的改革計画」が実施され、2003年には中期計画「優先課題・行動計画」を策定した。

この結果、2000年代前半の低成長を脱し目覚ましい経済成長を遂げ、他の発展途上国の経済開発のモデルとも見なされている。2018年のGDPは約9億1千万USD(世界銀行)を記録し、インフレは2.3%(2018年IMF)、外貨準備は記録的に増加し、通貨も安定した。2020年12月には後発開発途上国(LDC)の卒業を宣言し、ポートビラ市内で祝賀パレードが行われた。

人口の70%が全土で自給自足農業を営む状況は基本的に変わらないが、近年、農業の多様化によりココアや牛肉の輸出が増

加し、特に牛肉はコブラに次ぐ輸出実績を挙げている。また、観光産業を中核とするサービス産業の発展と土地開発・建設への投資の増加は好調な経済の牽引役となっている。現在、経済・サービス活動は2つの都市部（ポートビラ、ルーガンビル）に集中しているが、観光産業を中核とするサービス産業はGDPの約30%、農業中心の第一次産業はGDPの約40%を占め共に重要な産業となっている。

観光振興を積極的に推進した結果、観光客を含めたバヌアツ訪問者数が増加した。2018年には約12万を記録する一方で、日本からの訪問数は全体数の1%程度に留まっている。

社会と人々

バヌアツは長い間英国とフランスの統治下にあったが、現在でも伝統的な首長による統治が続いており生活の重要な規範となっている。少ない人口にもかかわらず、言葉は村ごとに異なり、その数は実に100を超える。また冠婚葬祭の習慣から社会のシステムまで多種多様で、島によ



明るいバヌアツの人々

て異なるのは勿論、大きな島では地域によっても異なる。

このような状況で村人相互の意思疎通を図るため、国語をビシュラマ語（ピジン英語）と定め、英語とフランス語も公用語としている。部族に伝わる古くからの習慣に英国とフランス文化（キリスト教）が共存し、互いに影響しあって穏やかで「和」を大切にしている独特の文化を育ててきた。

●教育

教育は二国統治の影響を今日も引き継いでおり、小学校の授業では英語かフランス語が使用され、授業以外の会話はビシュラマ語となる。

●宗教

宗教は90%以上がキリスト教徒で、その半分が長老派に属し、次いでカトリックと英国国教会が多い。一般的には村全体が一つの教会に属しているが、中には異なった宗教を信じる人々がそれぞれ固まって一つの村に共存している場合もある。離島に住む人々は、現在でも伝統的な宗教を信じる人も少なくない。



街中の教会

トラベルガイド

●バヌアツへの行き方

日本からバヌアツへの直行便は運行されていないので、ニュー・カレドニアのヌメア（エア・カラン航空、エア・バヌアツ航空）、オーストラリアのシドニー、ブリスベン、メルボルン（カンタス航空、エア・バヌアツ航空）、フィジーのナンディ（フィジーエアウェイズ航空、エア・バヌアツ航空）、ニュージーランドのオークランド（エア・バヌアツ航空）を経由して首都ポートビラに入る。

●バヌアツ空港

バヌアツの空の玄関口はエファテ島ポートビラのパウアーフィールド空港（Bauerfield Airport）であるが、空港ターミナルは「ポートビラ国際空港」(Port Villa International Airport=VLI)と表記されている。その他、サント島ルーガンビルには「ペコア」(Pekoa) 空港がありブリスベンから国際便が運行されている。どちらの空港も市内までは10分程度。

ポートビラ国際空港では、タラップを降りて旅客到着口に入るとすぐに入国審査



バヌアツ航空の機体

のカウンターが見える。機内で配布された入国カードに記入漏れがなければ簡単に審査が終わり、荷物を受け取って簡単な税関審査を受ける。小さな空港ターミナルだが、バヌアツ銀行(National Bank of Vanuatu)の支店、両替所、免税品店、コーヒーショップなどがある。

●査証（ビザ）

日本人は30日以内の観光目的の滞在ならビザ無しで入国可能。商用の場合はビジネスビザの申請が必要となる。ポートビラまたはルーガンビルの出入国管理事務所に申請すれば、最大4ヶ月までの滞在が認められる。ただし、パスポートはバヌアツ到着日から起算して最低6ヶ月の有効期間が必要であり、バヌアツを出国する航空券を所持していないと入国は認められない。(DEPARTMENT OF VANUATU IMMIGRATION AND PASSPORT SERVICES. Tel:(678)22354, URL: <https://immigration.gov.vu/>)

●税関

15歳以上の旅行者は、紙巻タバコ1箱（葉巻は持込不可）、2.250リットルのワイン3本、2.250リットルのスピリッツ1本およびビール1カートン、250mlまでの化粧水と100mlまでの香水、そのほか商品価値VT50,000までのギフトを含む新製品、未使用製品の持込が認められる。

ダンボールに入れた荷物は開けられる場合が多い。また、公序良俗に反するデータや図書などを所持していると、没収あるいは

は罰金の対象になる場合があるので注意する。

●通貨と両替

通貨単位はバツ(Vatu=VTで表記)で、
現地語で「石」を意味する。

紙幣：VT 200、500、1,000、5,000、
10,000

硬貨：VT 5、10、20、50、100

両替は空港や市内の銀行、両替所、主要
ホテルで可能であり、日本円からも換金で
きる。ポートビラ市内にある両替所のグッ
ディーズ (Goodies) は銀行よりレート
が有利のようである。また、一部の商店で
はオーストラリア・ドルでも買い物ができ
る。ポートビラのほかルーガンビルにある
銀行やホテルでも両替が可能である。レ
ートはVT1がおおよそ1円。



両替所「Goodies」

●クレジットカード

VISA、MASTERなど主要クレジット
カードはポートビラやルーガンビルのホテ
ル、レストラン、みやげ物店、スーパー
マーケットでは利用できる。タンナ島でも
有名リゾートなら通用する。ポートビラ、
ルーガンビルではクレジットカードによる
キャッシングもできる。

●付加価値税 (VAT)

バヌアツではほとんどの商品、サービス
に15%の付加価値税がかかる。

●チップ

チップの習慣は無い。それでも感謝の気
持ちは伝えなければ、例えば日本のTシャ
ツなどの小さなお土産は喜ばれる。

●時差

日本より2時間早い。日本の正午の時、
バヌアツは午後2時となる。バヌアツの
人々は時間をゆっくり過ごすので、せっか
ちな日本人はイライラすることが多いが、
現地のペースに合わせて焦らないことで
ある。特に熱帯地方の旅行ではゆったりと
することが健康を保つ一番の秘訣である。

●電話

- ・携帯電話 (スマートフォン)：地域によ
り通じない所もあるが広く普及してきて
いる。料金は携帯会社によって若干異な
るがバヌアツ国内だと15秒ごとに約VT
30、日本への国際電話利用は15秒ごと
に約VT 60かかる。
- ・電話の掛け方：国内では番号をそのまま
ダイヤルし、日本への場合、0081+0
をはずした市外局番+相手先電話番号。
- ・SIM購入の仕方：SIMフリー対応のス
マートフォンであれば利用できる。空港
や街中のスーパー、携帯電話ショップで
現地のSIMカードの購入が可能。現在は
VodafoneとDigicelの二つの通信会社
が存在する。

●郵便

国内郵便料金は、はがきや封筒VT60(重量による)で、首都内なら1週間、離島までは1ヶ月以上かかることもある。日本までの国際郵便料金は、はがき及び封筒VT300(重量による)で、約2週間程度かかる。出す時はホテルの受付か郵便局で直接投函するほうが良い。以下のURL参照。

(<https://www.vanuatupost.vu/index.php/en/postage-rate>)

●インターネット

4G回線レベルがほぼこの場所でも利用可能。近年Wi-Fiの普及が進み、主要なホテルや空港では大方無料で使用できる。レストランやカフェでのWi-Fi導入も増えてきている。現地にてWi-Fi機器のレンタルも可能だが、離島や郊外では受信状況が悪いこともある。

●治安

バヌアツは太平洋諸国の中でも最も治安が良い国の1つとして数えられる。ただし、現地人が飲酒により羽目を外して騒ぐこともあるので注意すること。

●衛生状況・健康管理

マラリアは神経質になる必要はないもののまだ根絶はされていない。デング熱も数年に1回程度の流行が報告されている。マラリアは夕方から明け方にかけ活動(吸血)するハマダラ蚊により、デング熱は日中に活動するネッタイシマカやヒトスジシマカにより媒介される。できる限り肌を露出しない服装を心がけ、防虫スプレーを使用す

る。離島などマラリアの流行が比較的多い場所に2週間以上滞在する場合、予防薬の服用が勧められるが、副作用の問題もあるので事前に医師に相談すると良い。また、デング熱は予防薬やワクチンがないので蚊を防ぐしか予防する方法はない。虫除けは一般的にオーストラリア製の商品がスーパー等に陳列されており、現地でも入手可能である。

●飲料水

水道水は良質で病原菌に汚染されていることはないが、カルシウム分がかなり多く、日本人は一過性の下痢をおこすこともあるので、旅行者は市販のミネラル・ウォーターを飲むようにすると良い。なお、水道水も念のため煮沸して飲むことをお勧めする。

●電気

電気は240V、50Hz。プラグはオーストラリアと同じ3ピンタイプかフラットな2ピンタイプ。日本からドライヤーなどを持参する場合は、変圧器とアダプターが必要となる。



バヌアツのプラグ

●祝日

- ・1月1日：元日
- ・2月21日：ウォルター・リニ（初代首相）記念日
- ・3月5日：カスタム・チーフの日
- ・3月下旬～4月中旬の金曜日：
グッド・フライデー（イースターサンデーの二日前）
- ・3月下旬～4月中旬の月曜日：
イースター・マンデー（イースターサンデーの一日後）
- ・5月1日：メーデー
- ・5月頃：キリスト昇天祭（イースターサンデーの39日後）
- ・7月24日：子供の日
- ・7月30日：独立記念日
- ・8月15日：聖母被昇天祭
- ・10月5日：憲法記念日
- ・11月29日：ユニティー（統一）・デー
- ・12月25日：クリスマス
- ・12月26日：ファミリー・デー
（官公庁は、上記祝日および土曜日、日曜日が休日となる。）

●ビジネス・アワー

官庁は7：30～16：30、銀行はエー・エヌ・ゼット銀行（ANZ Bank）が9：00～15：30（金曜日は8：30～）、ブレッド銀行（Bred Bank）が9：00～15：30、ビー・エス・ピー銀行（Bank South Pacific）が8：30～16：00、ナショナル銀行（Bank Of Vanuatu）が8：30～15：30（金曜日は～16：00）で



ANZ銀行

あり、土日祝日は休み。商店は8：00～18：00であり、中国人の店とスーパーマーケットを除き、土曜日の午後と日曜日はほとんどが休みとなる。

●新聞・雑誌

新聞は日刊で「デイリー・ポスト」（日曜日休刊、英語）があり、1部VT100で街角の新聞売りかスーパーマーケット、中国系の店で購入できる。

●ラジオ・テレビ

ラジオはAMの「ラジオ・バナアツ」（MWバンド1125kHz）、FMは98MHz、107でMHzでビスラマ語、英語、仏語で放送している。その他、オーストラリア放送（周波数17.995MHz）、BBC（15.160MHz、FM国際放送は99MHz、24時間）、VOAが聞ける。

テレビは衛星放送が各主要ホテルでは利用できるため、オーストラリアのテレビ番組や映画、スポーツチャンネルを観ることができる。

注意すべき言動や行動（タブー）

- ・ 防犯対策として、夜間の一人歩きは避ける。夜間女性一人でバスやタクシーに乗らない。バーなど飲酒を主にした店や酔っ払いに近づかない。
- ・ バヌアツでは、土地と農作物の所有権については非常に意識が高い。地方の小さな村を訪れる時は、入り口で誰かが来るのを待ち、許可を得てから入るようにしよう。（たいてい子供たちがいるので、直ぐに誰かが来る。）
- ・ 道を離れて森に入る場合も最初に出会った人に許可を求めよう。直ぐに許可されるか、責任者を紹介される。
- ・ 道端や森に生っている果物などを決してもぎ取ったりしてはならない。
- ・ 海岸に出てサンゴ礁に入る時も必ず所有者がいるので注意しよう。
- ・ 村を訪れるとココナッツやバナナでもてなされることもある。短い滞在ならお礼を言うだけでよいが、長期に滞在する場合は肉や魚の缶詰、マッチ、ろうそく、お茶、砂糖などの返礼品を用意する。
- ・ 常にローカルなタブーに注意しよう。例えば、地方の伝統的風習が残る村にある「ナカマル」（集会場）は女人禁制の所もあるので、ここに入る場合には必ずメンバーの許可を得なければならない。近年、ポートビラなどではナカマルは単にカバを飲むバーとなっているところもあり、ここには女性も入ることができる。

出国

●チェックイン

チェックインは国際線の場合、出発予定時刻の3時間ほど前から。国内線の場合、2時間ほど前からできる。

●空港利用税

国際線及び国内線空港利用税は航空券料金に含まれている。これとは別に国内線を利用する場合、全ての空港でVT200の空

港税が徴収される。（航空券には含まれていない。）



空港税支払い所

ビスラマ語（ピジン・イングリッシュ）を話そう

村ごとに異なる言葉を持つバブアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツで共通語（公用語）として話されている言葉で、英語をベースにしたピジンイングリッシュという共通語が

ある。バヌアツでは「ビスラマ語」と称されており、地元の方たちと会話するときに使うとぐっと距離が縮まるだろう。

日本語	英語	ビスラマ語	発音
こんにちは	Hello	Alo	アロ
さようなら	Goodbye	Tata	タタ
どうぞ	Please	Plis	プリス
おはよう	Good morning	Gudmoning	グッドモニン
おやすみ	Good night	Gudnaet	グッドナエット
すみません	Excuse me	Skiusmi	スキウスミ
どうもありがとう	Thank you very much	Tangkyutumias	タンキュートウマス
お元気ですか？ 調子はどう？	How are you?	Olsem wanem?	オルセムワネム
元気だよ	I'm fine.	I straet nomo.	イーストレト ノモ
そして	And	Mo	モ
いくら	How much?	Hamas	ハマス
～をもっていますか？	Do you have__?	Yu gat__?	ユ ガット～？
わたしわかりません	I don't understand.	Mi no savee	ミ ノ サビー
じゃ、また	See you.	Lukim yu	ルクィム ユ
すみません	I am very sorry.	Sori tumas	ソリ タマス
名前はなんですか？	What is your name?	Wanem nem blong yu?	ワネム ネム ブロング ユ
この食べ物美味しい	This food is delicious.	Kakae emi gud	カカエ エミ グッド
お腹がすいている	I am hungry.	Mi wantem samting long kakae	ミ ウォンテム サムティング ロング カカエ
喉が渇いている	I am thirsty.	Mi wantem samting long dring	ミ ウォンテム サムティング ロング ドウリング
すばらしい	Excellent	Nambawan	ナンバワン
魚	Fish	Fis	フィス
大きい	Big	Bigfala	ビッグファラ
食べ物	Food	Kakae	カカエ
飲み水	Drinking water	Kolwater	コルウォター
海水	Seawater	Solwater	ソルウォター
かもめ	Seagull	Pigeon blong solwater	ピジョン ブロング ソルウォター

アクティビティ

バヌアツには独特の観光名所が多い。タンナ島のヤスール活火山の噴火を目のあたりにする体験、サント島に点在する『神秘の泉』ブルーホール巡り、バンジージャンプの発祥となった伝統的な儀式の見学、裸

族の村を訪問し文化や昔ながらの生活様式を見聞・体験するなど。それ以外にも数多くのバラエティーに富んだツアーが企画され、老若男女を問わず誰もが無理なく楽しめる。マリンスポーツも盛んで、どこまでも透き通るコバルトブルーの海でシュノーケル、ダイビングなどが楽しめる。

★大自然体験ツアー

●迫力満点の火山見学ツアー

バヌアツ観光において2大看板名所の1つが火山。タンナ島にあるヤスール火山は噴火の様子を火口で体験できる活火山として有名。夕方から夜にかけて見学する午後ツアーと、早朝から朝日が昇る頃に見学する早朝ツアーはそれぞれ見応えが異なり、どちらも甲乙つけがたい。



家族で楽しめるバヌアツ

●神秘的な青い泉ブルーホールツアー

火山と双壁を成すもう1つの観光名所がサント島のブルーホールと呼ばれる神秘的な青い泉である。サント島内では確認されているだけでも6つあり、それぞれのブルーホールで青色の濃さや質、水の透明度が少しずつ異なっている。ブルーホールとシャンパンビーチを1日で巡るツアーがあり、人気が高い。



ブルーホール

●人魚のモデルとなった『ジュゴン』とのシュノーケリングツアー

絶滅危惧種に指定されているジュゴンが多く生息するのもバヌアツが誇る見所の1つ。エファテ島より北に位置するマレクラ島。その最南端にマスケリン島という小島があり、その近海にはジュゴンがほぼ毎日出没すると言われている。ジュゴン探索ツアーが催行されており、シュノーケリングでジュゴンにアプローチできるという貴重な経験ができる。



ジュゴン

★文化歴史体験ツアー

●バンジージャンプの発祥の地『ナゴールの儀式』見学ツアー

エファテ島の北約230kmに浮かぶペン

テコスト島は、バンジー・ジャンプの基になったランド・ダイビングで知られる。毎年4～6月にかけて行われる収穫祭のメイン・イベントで、約20mの高さに組み立てたやぐらから若者が地面をめがけて飛び降りる。やぐらの横では飛び降りる若者を勇気づける勇壮な踊りが繰り広げられている。成功した若者は大声を上げて勇気を誇示し、それに観衆が歓声で応える。ペンテコスト島への日帰りツアーはエファテ島より催行しているのが一般的。



ランドダイブ

●バヌアツの世界遺産 ロイマタツアー

ロイマタとはエファテ島内の民族紛争が絶えなかった時代に、初めて島内統一を成し遂げた大酋長の名前。統一後も紛争が再び起きないように尽力し、今日までの平和に貢献したとさえ言われる。2008年にそのお墓や死没地とされる洞窟、生活拠点など、ロイマタにまつわる聖地が世界遺産に登録された。



フェルズ洞窟

●ホームステイ体験

バヌアツでは今も尚、古来より伝わる生活様式を保ちながら暮らす民族も多い。水道や電気が一切通っていない村も多数存在する。文化体験の一環として、そのような村にホームステイをするのも貴重な経験となるだろう。現地人の心温かさや子供たちの笑顔に癒されながら、バヌアツならではの思い出が作れる。ただし日本とは大きく生活様式がことなるワイルドな暮らしのため、ある程度の気合いと覚悟が必要。



裸村での体験

★ウエディング

●バヌアツ伝統儀式タイプ

バヌアツでは伝統儀式に基づいたウエディングを挙げるができる。民族衣装を纏い、酋長から祝福のお言葉をいただき、村人によるお祝いのカスタムダンス披露と、お祭りのようなウエディングである。正式に婚姻が認められた証としてバヌアツ政府公認の結婚証明書を発行してもらうことができる。



カヌーに乗る花嫁

●お洒落な西洋チャペルタイプ

バヌアツはリゾート地としても有名で、白を基調とした本格的なチャペルを備えるリゾートホテルもある。白砂のビーチを背景に行われる結婚式は生涯の思い出になるだろう。ただし、バヌアツにはタキシードやウエディングドレスといった結婚式用の衣装を貸し出すお店は無いため、持参する必要がある。



タマヌオンザビーチリゾートのチャペル

★ダイビング

ダイビングを楽しめる国としても注目を浴びている。珊瑚礁やそれに群がる美しい熱帯魚はもちろんのこと、サント島には世界最大の大きさを誇る沈船や第二次世界大戦中に使用された戦闘機を巡るダイビングができ、タンナ島では青の洞窟と呼ばれるブルーケーブを潜っていく神秘的なダイビングスポットがある。



サント島のダイビング

★フィッシング

大物をターゲットとするトローリングが楽しめる。カジキマグロを狙うフィッシングの大会が毎年行われている。初心者でも簡単に体験できるフィッシングツアーもあり、綺麗な海で釣りを楽しめる。



トローリング

★スパ

主要なリゾートホテルでは若返りとリラックスのためのデイ・スパが充実している。フェイシャル（美顔）、マニキュア、ペディキュア（足療法）、ボディー・スクラブなど、様々なサービスが利用できる。オーガニックが特徴のエッセンシャル・オイルを使用したナチュラル・パッケージは男女共に楽しめる。



スパ

★ゴルフ

過去にオーストラリアの公式試合も行われたことのあるポートビラ・ゴルフ・アンド・カントリー・クラブ(Port Vila Golf and Country Club)がエファテ島ポートビラの郊外にある。18ホールのチャンピオン・コース。メレ湾に面し、全長5,800メートル。バヌアツ・オープンも開催されるコースでは、海と南国の風景を楽しみながらゆっくりゴルフができる。料金は約VT2,500(30豪ドル)にキャディー・フィーVT1,000が必要である。申し込みは旅行エージェントを通じて行うのが一般的。その他、ル・ラグーン・リゾートホテルには12ホールのゴルフ場がある。



ゴルフ場

首都ポートビラとエファテ島



首都ポートビラがあるエファテ島は、サント島、マレクラ島に次ぐ面積約980km²の島で、南北に長い群島の中央南よりに位置している。エファテ島は南北37km、東西46kmで、ほぼ中央には標高647mのマクドナルド山、その直ぐ西に標高484mのポポナカス山がある。全体的にはフラットな優しい感じの島であるが海岸線は入り組んでおり、山の影響で東海岸は雨が多い。人口は約50,000人、これはバヌアツの総人口の27%に当たる。

ポートビラはエファテ島の南西に位置しており、バヌアツで最初に開けた美しい港町で、唯一の国際空港も市街の北約6kmにある。ポートビラの人口は2020年現在の推定で約40,000人、1989年の人口調査では約19,000人とされていたので、ほぼ2倍に膨れ上がったことになる。



ポートビラとイリリキ島

エファテ島の歴史

この島を最初に訪れたヨーロッパ人はキャプテン・クックで、1774年と記録されている。1800年代に入ると捕鯨船団や白檀を求めてヨーロッパから多くの人々が訪れるようになり、キリスト教の布教も始まった。

1870年代はフランスの進出が目立つようになり、英国との関係が緊張、1886年にはフランス軍がエファテ島の北西のハバナ港に上陸している。1906年の和解放によって、英仏2国による共同統治が開始され、ポートビラが正式な首都となった。第2次世界大戦ではアメリカ軍が基地を置いたが、戦場には至っていない。

ポートビラとその周辺

ポートビラの市街は馬蹄形をしたビラ湾に突き出した半島の付け根に位置する南北3km、東西200mほどで、繁華街と呼ばれるのはリニ・ハイウェイ沿いの1kmほどである。繁華街を一步外れるとそこはのどかな田舎の表情を持つ南の島で、シャイで優しい表情の人々に会える。

●空港から市街へ

空港からポートビラの中心地までは約6km。ツアー会社の送迎がない場合にはタクシーを利用することになる。タクシーは安全であるが、夜間女性一人で利用することは避ける。市街までの料金はタクシーがVT 1,800。ミニバスは利用できない。





パウアーフィールド国際空港

●市内の交通

中心街を移動するのは徒歩で十分であるが、リゾートホテルはいずれも中心街から少し離れているので、その往復にはミニバスやタクシーを利用することになる。

ミニバス（ナンバープレートに赤字で「B」の表示）は市民の足である。タクシーと同じで行き先は決まっておらず、先に乗った人が優先される。市内での利用は片道VT 150で、郊外へ行く場合は追加料金を支払う。町中でも座席が空いていれば手をあげると停まってくれるので、行き先を告げて運転手がOKを出せばその場所まで行ってくれる。

タクシー（ナンバープレートに赤字で



市内を走るミニバス

「T」と表示）は空港や市場などに常駐している。メーター制ではないため乗る前に料金を確認すること。市内の移動ならVT500程度。ホテルやレストランで呼ぶ場合、迎えに来るための料金が加算される。

レンタカーは会社によって多少借りられる条件が違うが、基本的には25歳以上とされる。英会話が不得意な場合は英文で証明できる国際免許を保持するのが望ましい。

ポートビラの見どころ

ポートビラの中心街はリニ・ハイウェイに沿った約1kmで、政府機関や銀行、市場、レストランが並んでいる。町を散策して気さくなポートビラの人々と触れ合うのも楽しみの1つだ。観光やアクティビティの情報を集めるために観光局を訪れたい。



ポートビラ市内



マーケット

バヌアツ観光局

Vanuatu Tourism Office :
Tel.22 515、E-mail: tourism@vanuatu.com.vu、
URL: <https://www.vanuatu.travel/en/index.php>

ポートビラの中心部にあり、リニ・ハイウェイに面するBSP銀行やANZ銀行から30m程北へ向かったところにあるビルの1階にある。各種の市資料が用意されており、エファテ島以外の観光情報もここでは入手可能である。またビジネスに役立つ情報も入手できる。営業時間は月曜日から金曜日の8:00～17:00、土曜日の8:00～12:00。祝日は8:00～12:00。

カルチュラル・センター

Cultural Centre

ポートビラの中心部の南、広大な敷地を持つ国会議事堂の正門前にある。バヌアツの歴史や伝統文化に関する資料が所狭しと展示されている。各種の祭具や木彫りの神様(タムタム)などは必見。開館時間は月曜日から金曜日の8:00～16:00、土

曜日は8:00～12:00で、入館料はVT 1,000。砂絵の見学をする場合VT500が加算される。



カルチュラルセンター

水中郵便局 ハイダアウェイ島

Hideaway Island

エファテ島の南西にハイダアウェイ島と呼ばれる島全体が宿泊施設になっている小島がある。そこには世界で唯一の水中郵便局があり、実際にハガキを送ることが可能。ハイダアウェイ島や街中の郵便局で防水用ハガキが販売されているので、購入すれば誰でも水中ポストへ投函ができる。

❖必見コラム ～無形文化遺産「砂絵」～

無形文化遺産にも指定されている砂絵は、バヌアツにとっては欠かせない文化である。砂絵師と呼ばれる達人によって指一本で一筆書きで描かれる砂絵は、左右対称の幾何学模様を表すことが多い。文字がないバヌアツでは古くから意思疎通や口頭伝達の手段としてこの砂絵が利用されたと言われている。伝統として受け継がれてきた儀式や文化、歴史などを砂絵で表現し、子孫への教えとしても用いられてきた。





水中郵便局

マーケット

Market

ポートビラ湾沿いに建つマーケットは月曜日から土曜日の夕方まで開いている。マーケットでは新鮮な野菜や果物、花衣類、装身具などあらゆるものが売られている。特に朝一はエファテ島はもちろん、周囲の小さな島々から1週間分の収穫物を売りに来て、1週間分の買い物をして帰る人々もいる。バヌアツではほかのメラネシアの市場のように値引き交渉の習慣はない。



マーケット

フレンチの丘

Hill of French

独立公園の北約500mほどに市役所が

あり、その北側にフランス人居住区があった。ポートビラ屈指の眺めが良い場所とされており、丘の上には第1次世界大戦の戦没者慰霊碑が建っている。



フレンチの丘

ハンドクラフトマーケット

Handcraft Market

バヌアツ産のお土産を購入したい方におすすめなのがハンドクラフトマーケット。街中のマーケットから海沿いに歩いて5分程度の場所にあり、地元民により作られた手工芸品が多く並んでいる。パンダナスの葉を編み込んで作ったカバンや扇子、木や石を彫刻して作成されたタムタム、貝や木の実をあしらったアクセサリーなどがあり、地元ならではの土産を買える。写真を撮る際には必ずお店の方に一言許可を取ってから撮影しよう。



ハンドクラフトマーケット

◆必見コラム ～これぞ職人技「ナタングラ彫刻」～

バナアツで繊細なお土産と言えば、ナタングラ彫刻。ナタングラの木に生るテニスボールサイズ程の堅い実を採取し、そこからカメやイルカなどの細かい模様を描きながら彫刻していく。かなり高度な技術が必要なため、商品にできるほどの腕を持った人は指を折るくらい。高い作品で10,000VT以上はするが、職人の技が光る芸術に感動することは間違いのないだろう。



メレ・カスケード

Mele Cascade

エファテ島の南西にメレ・カスケードと呼ばれる滝がある。ちょっとした登り坂の比較的簡単なトレッキングコースを歩いて20分程で、マイナススイオンたっぷりの滝を訪れることができる。道中に川の中を渡る場所があり、滝つぼで泳ぐこともできるので濡れても良い格好が良い。



メレカスケード

エファテ島アクティビティ

●ジップライン

バナアツには手つかずの森が多くあり、その大自然の中で遊べるのがジップラインである。森の中をロープウェイ形式で疾走

し、森を上空から見下ろすことができる。小学生程度の子供であれば参加できるので、家族連れの体験アクティビティとしておすすめだろう。

●バギー

バナアツの広大な草原を利用したアクティビティがバギーだ。小型の四輪駆動のバギーで草原内を周遊しながら遊ぶことができる。途中には泥道の中を進むコースもあるので、泥だらけになっても構わない服装で挑もう。

●乗馬

乗馬体験で自然と触れ合うのも魅力の一つ。自然林の中をゆっくり進み、綺麗なビーチ沿いを乗馬しながら進んで行く。希望によっては馬と一緒に遊泳ができるツアーもある。馬と海を泳ぐ体験は貴重な思い出になるだろう。

●ボート・ヨット・クルーズ

終日のクルージングツアーでは、観光、スイミング、シュノーケリング、ピクニックを全て楽しむことができる。エファテ島

周辺の離島を訪問することもできるのでお勧め。

夕方前に出発するサンセットクルーズも見どころ満載だ。水平線に沈んでゆく夕日を眺めながら、帆船の上で軽食とお酒を嗜み、優雅なひと時を過ごせる。



ポートクルーズ

●ダイビングとシュノーケリング

ポートビラ周辺には色とりどりのサンゴや大洞窟、ドロップオフから沈船ダイブまで多種多様なダイビングスポットが数多くある。



ポートダイブ

コナンダ

Konanda

ポートビラから約2kmにあるイフィラ島の沖に、1987年のサイクロンで破損し

た商船が沈んでいる。島々を回る船で長さは45m、海面下26mにあり、ライオンフィッシュやボックスフィッシュ、クロコダイルフィッシュなどが住処としている。沈船ダイブが初めての人も安心してチャレンジできる。

ポールズ・リーフ

Paul's Reef

ポートビラの西約35kmに浮かぶ小島、エリートカ島（ハット島）の東400mの沖合いにあるポイント。海面から僅か2mに広がるサンゴの庭にはさまざまな熱帯魚が群がっており、バヌアツ屈指の美しさを誇る。

ロシアの星

Star of Russia

タイタニックを建造した北アイルランドの造船所で1874年に進水した帆船がメレ湾に沈んでいる。全長80m、幅13mの3本マストを持つスマートな船体にはさまざまな海洋生物が生息しており、訪れるダイバーの興味を尽きさせない。

大聖堂

Cathedral

バンゴ半島の先端にあるポイントで、海面下20mほどにまるで大聖堂を思わせるような光景が見られる。洞窟の中には煙突のようなトンネルがあり、上に抜けるとリーフに出る。メレ湾のダイビング・ポイ

ントでは1,2を争う面白さがある。

●フィッシング

ポートビラの周辺海域はまだまだ手付かずの海で、素人でもフィッシングを楽しめる。チャーターボートを予約して、トローリング、深海釣り、大物を狙うゲームフィッシングなどを楽しもう。マカジキ、ワフー(サワラ)、マイマイ(シイラ)トレバリー(アジ科)などが釣れる。



ベレ島海岸



フィッシング

ホテル (ポートビラ)

エファテ島には、日常を離れてゆっくり寛ぐことのできるリゾートホテルから、比較安価で泊まりやすいモテル、バックパッカー専用の簡易宿泊所まで多種多様な

宿泊施設が点在する。旅行者は旅のスタイルや予算に応じて選択できる。

メラネシアン・ホテル

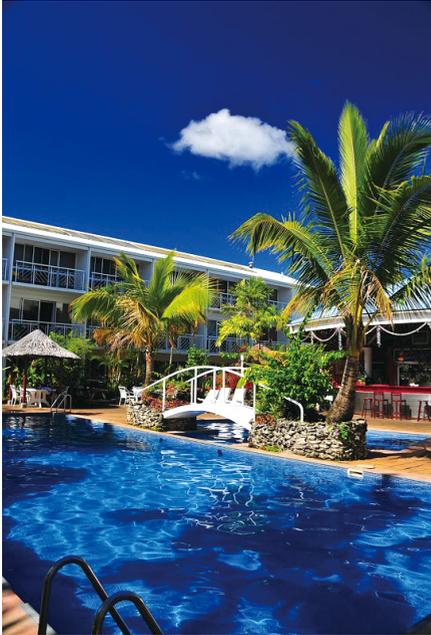
The Melanesian Port Vila, Tel:22150,
E-mail: reservations@melanesian.com.vu,
URL: <https://www.melanesianportvila.com/>

正式名は「ザ・メラネシアン・ポートビラ」だが、「メラネシアンホテル」の名前で親しまれている日本人経営の三ツ星ホテル。

空港から車で15分、ポートビラの街中まで歩いて10分の所にあり、南国の雰囲気漂うホテルだ。プール、バーも完備し、ホテル内のレストラン「カサミア」では本格的イタリアンを味わえるほか、収穫時期によっては高級ロブスターも堪能できる。ロビーにある旅行会社サウスパシフィックツアーズ (SPT Vanuatu、詳細はP47参照) では、バヌアツを熟知した日本人スタッフが在り、各種ツアーの申し込みや国内線の手配などをサポートしてくれる。通訳などのビジネスサポートからホームステイの手配と多種多様なニーズに応えてくれる。



メラネシアンホテル客室内



メラネシアンホテル

リゾートタイプで、島内にはカジノも併設されている。



イリリキ・アイランド・リゾート



海岸のファレ



SPTオフィス



イリリキ・アイランド・リゾート客室内

イリリキ・アイランド・リゾート&スパ

Iririki Island Resorts & Spa, Tel:23 388,

E-mail: reservations@iririki.com、

URL: www.iririki.com

高床式の個別バンガロー（ファレ）からなり、水上、海辺、ハーバービュー、ガーデンビューの4種類の部屋が楽しめる。イリリキ島をまるごとリゾートにした1島1

ル・ラゴン・リゾート

Le Lagon Resort, Tel: 22 313,

E-mail:reservations.lelagon@warwickhotels.

com, URL: lelagonvanuatu.vu

エラコール・ラグーンの澄んだ海に隣接する75エーカーの熱帯庭園に、草葺屋根のバンガローを含めた多くのゲストルームが点在し、ラグーンや庭園の眺めは抜群。

敷地内には簡易的ではあるがゴルフ場も完備された正統派リゾート。



ル・ラゴン・リゾート

エラコール・アイランド・リゾート&スパ

Erakor Island Resorts & Spa, Tel:23098,
E-mail:book@erakorislandresort.com,
URL: <https://www.erakorislandresort.com/>

エラコール湾に佇むエラコール島を丸々利用した1島1リゾート。比較的予算の控えめなお部屋からハネムーン向けのラグジュアリービラと、幅広いタイプの客室が備わっている。この島は西洋式のウェディング会場としてオーストラリア人に人気。



エラコール・アイランド・リゾート

タマヌ・オンザビーチ・リゾート&スパ

Tamanu On The Beach Resort & Spa,
Tel:27279, E-mail:reservations@tamanuon-thebeach.com, URL: <https://www.tamanuonthebeach.com/>

白を基調としたおしゃれな建物で南国気分を盛り上げてくれるリゾート。目の前には雄大な海が広がり、ビラタイプの部屋がビーチ沿いに連なる。センスの光る室内は女子旅やカップルにおすすめ。部屋から歩いて数秒で白砂ビーチなので、1日をのんびりと過ごせる。海を見ながらの食事は優雅な時間を与えてくれる。



タマヌ・オンザビーチ・リゾート

ザ・ハバナ・リゾート

The Havannah Vanuatu,
Tel:35601, E-mail:reservations@thehavannah.com, URL: <https://www.thehavannah.com/>

空港から車で30分程のエファテ島北部に位置し、白い砂浜のプライベートビーチでマリンスポーツやスパを楽しむことができる大人気の高級リゾート。大人限定のリゾートのため、静かにゆっくりと過ごしたい旅行客には最適。



ハバナ・リゾート

●その他のホテル

ポートビラにはホテルやリゾートだけでなく、リーズナブルな安宿も点在する。バックパッカー向けの宿泊施設を求める場合、以下のホテルを参考にすると良い。

ホテル名	(英語名)	電話	ウェブサイト
シティ・ロッジ	City Lodge	40 625	www.crystalbluelagoon.com
セントラル・ベイ・モーター	Central Bay Motel	26 880	www.centralbaymotel.com
ハイダウェイ・アイランド・リゾート	Hideaway Island Resort	22 963	www.hideaway.com.vu

レストラン (ポートビラ)

ポートビラにはフランス系、バーレストラン、中華、アジア系などバラエティーに富んだレストランが多数あり、質の高い料



フレンチレストランの料理

理が楽しめる。おすすめはバヌアツ牛。脂身が少ないジューシーな赤身が特徴で、その質は世界トップクラス。海産物も有名でロブスターやヤシ蟹などの高級食材も味わうことができる。

ストーングリル

The Stonegrill Restaurant, Tel:5464506

街中から車で5分。熱々の石板の上で、新鮮なバヌアツ牛のステーキ肉を自分好みの焼き加減で堪能できる人気のレストラン。脂身が少ないのにも関わらず非常に柔らかく肉のうまみがしっかり出ているバヌアツ牛をお試しあれ。

カサミア

Restaurant Casa Mia, Tel:22150

メラネシアンホテルのメインレストラン。雰囲気のある店内で本格的なイタリアンが味わえ、ピザやパスタは絶品。バヌアツ産の高級ロブスターも入荷状況により注文できるため、来店する価値あり。



ロブスター料理

ビラシュメール

Vila Chaurmieres Restaurant & Resort,
Tel:22866

街中から車で10分程のところにある宿泊施設も備わっているレストラン。ラグーン沿いにせり出したウッドデッキは夜にはライトアップされ、非常にロマンチックな雰囲気醸し出す。バナアツ産の高級食材ヤシ蟹が注文でき、独自のこだわりソースと絡まる味は一級物。ただしこちらも漁獲量によっては用意できない場合がある。

ハーバービュー・チャイニーズレストラン

Harbour View Chinese Restaurant,
Tel:23668

街中から車で5分程空港に向かう途中の小高い丘にある中華レストラン。中国人オーナー、シェフが切り盛りするため、味も本格的。レストランからはポートビラ湾が一望でき、タイミングが良ければ巨大なクルーズ船が湾内を航行する姿を見ることができる。

ヴァン・ジャパニーズレストラン

Van Japanese Restaurant, Tel:22941

ストーングリルレストランの向かいにあるバナアツ唯一の日本食レストラン。日本人オーナー、ヘッドシェフも日本人のため、味に間違いは無い。バナアツ近海で取れたマグロをお刺身やお寿司として食べることができるので、日本の味が恋しくなった方は訪れてみよう。

ナイトライフ

●カバ

カバはコショウ科の木の根を石などで潰して汁を出し、それを少量の水と混ぜたもの。飲んでしばらくすると口の周りがしびれ、頭がフワッとして気を鎮める効果があるとされている。バナアツのカバは非常に濃く、大量に飲むと倒れることもあるので、少量で止めておいたほうが良い。カババーに行ってみたい人はホテルのレセプションに訊ねると良い。人気のあるカババーは、ナンバツ(Nambatu)のバンブー・

◆必見コラム ～カババーこと「ナカマル」～

カバを夜な夜な飲みに来る現地人のために、バナアツ各地では『ナカマル』と呼ばれるカババーが多く存在する。本来『ナカマル』とは集会所を意味し、村の酋長が村民たちへ村内で起きたことの報告や会議、世間話をする場所。そのような会合の場所と、カババーで世間話が飛び交う雰囲気が重なり、カババーが『ナカマル』と呼ばれるようになったのだとか。仲間同士で喧嘩した後でもカバを一緒に飲めばそれで仲直りできるらしい。



ナカマル (Bamboo Nakamal)、チーフス・ナカマル(Chief's Nakamal)、マンゴー・リゾート (Mango Resort) の隣にあるマーク・レジナルド(Mark Reginald's)が挙げられる。



カバの儀式



お土産用カバ

●メラネシアナイト

主要なホテルでは週に1～2回、メラネシアスタイルのショーが催され、伝統的なダンス、カバの試飲、伝統的料理などが楽しめる。火の着いたたいまつを華麗に回しながら芸を披露するファイヤーショー、プールの水を叩き音を奏でるウォーターミュージック、バヌアツに昔から使用されている楽器を中心に演奏するストリートバンドなどを楽しめる。



ファイヤーショー

●カジノ

ポートビラには4軒ものカジノがホテルに併設されている。カジノは昼過ぎから明け方まで営業している。ドレスコードではなく気軽に入れるが、タンクトップや帽子を着用したままの入店はできない。

エスピリットサント島（サント島）とルーガンビル

エスピリットサント島、通称「サント島」はエファテ島の北西約250kmに位置し、面積4,010km²を有するバヌアツ最大の島。人口は約40,000人、島の中心は南東にあるルーガンビルで、第2次世界大戦中はアメリカ軍の前線基地として栄えた。

1942年5月にアメリカ軍の基地建設が始まり、一度に10万人の兵士を受け入れる巨大な町となった。1945年9月までの約3年間に約50万人以上の兵士がルーガンビルを通過した。町にはカマボコ型の兵舎が並び、5つの飛行場と4つの病院、そして実に40件の映画館があったとい

う。作家ジェームズ・A・ミッチェナー(James A. Michener)が駐屯中、島の娘に恋をした彼は、後にミュージカル「南太平洋」(The South Pacific)の基となる「南太平洋物語」(Tales of the South Pacific)を発表した。

戦争が終わり、アメリカ軍が去った後に残ったものはごみの山であった。アメリカ軍は不要になったブルドーザーやクレーン車、フォークリフト、発電機などをルーガンビルの東約10kmの海岸に捨てた。そのごみの価値を見て地元の人々がミリオン・ダラー・ポイントと名付けた。現在ではサント島のダイビング・スポットの一つとして知られている。



サント島の特徴

サント島の北側にはカンバーランド半島とカサオ半島が2本の角のように突き出ており、その間には、1606年にこの島を訪れたスペイン人の探検家、キロスが3隻のガレオン船で入ってきたビッグ湾(Big Bay)がある。彼はこの島を「聖霊の地」を意味するエスプリツサントと名付けた。

サント島は南北が116km、東西59kmで、島の西側にはバヌアツの最高峰、標高1,879mのタベマサナ山(Mt. Tabwemasana)を中心に3つの1,700m級の山々が聳え、さらに北西のカンバーランド半島に向かって1,500m級の山並みが続く未開のジャングル。対照的に南から

東にかけては比較的平坦な地形で、ココナッツ・プランテーションや牛の放牧地帯が広がり、住民の大部分が生活している。

ルーガンビルの気温は夏が最高で30℃、冬が27℃とほとんど差がないが、降雨量は2月が最も多く平均330mmで、乾季の8月は平均80mmほどである。

ルーガンビルへの行き方

ルーガンビルの中心から東へ約5kmにペコア国際空港がある。ブリスベンから週2回、直行便が運行されている。また、国内線はポートビラとの間に毎日2～3便が運航され、所要時間は約1時間。空港から町にはミニバスかタクシーを利用する。ミ





ベコア空港



ルーガンビル市内

ニバスはVT 200、タクシーはVT 500からで、タクシーの場合はメーターが付いていないので、乗る前に料金を確認しておくこと。

サント島のみどころ

ジャッキーズ・ブルーホール

Jackies Blue Holes

サント島の東沿いにはいくつものブルーホールが点在する。非常に濃い紺色をしている泉がジャッキーズ・ブルーホール。泉のそこまで見えるほどの透明度。ここではロープに捕まってそのままブルーホールへダイブするターザンジャンプを楽しむ。



ジャッキーズ・ブルーホール

リリ・リバー・ブルーホール

Riri River Blue Hole

同じくサント島の東沿いにあるリリ・リバー・ブルーホールも欠かせない。ここへのアプローチは手漕ぎカヌーに乗ってガラスのような透明度の高い川をゆっくり進んでいく。その奥に薄っすら青みがかったブルーホールがある。ここでもターザンジャンプが楽しめる。



リリ・リバー・ブルーホール

マテブル・ブルーホール

Matevulu Blue Hole

もう1つサント東沿いにあるのがマテブル・ブルーホール。このブルーホールへカヤックやサップボーでマテブル川を遡上していくアクティビティもあり、おすすめ。



マテブル・ブルーホール

シャンパン・ビーチ

Champagne Beach

東海岸の Hog Harbor 地域にある椰子の木に囲まれた美しい白い砂浜のビーチ。地下から溢れる淡水が泡と一緒に水面に出てくることからシャンパン・ビーチと名付けられた。南太平洋随一とも呼ばれる綺麗さを誇る。



シャンパンビーチ

オーリー湾

Port Orly

シャンパンビーチを更に北上していくと、ポートオーリーという小さな村に行き着く。村には細やかな白砂ビーチと鮮やかな水色の海が広がる。ビーチ沿いにレストランもある。

村は1887年にカソリックの宣教ミッションにより建てられた。美しい村は島の広葉樹で覆われている。



ポートオーリー

ミレニアム洞窟

Millennium Cave

ルーガンビルから北西に15kmのジャングルの中にある幅20m、高さ50mの洞窟で、まばゆいばかりの鍾乳石や石筍、澄んだ水の流れる滝があり、何千ものコウモリとツバメが棲息する。洞窟探検後は渓谷の間を流れる川を泳いで下るトレッキングが楽しめる。



ミレニアム洞窟

ルーガンビル・マーケット

Luganville Market

町のメインストリートにあり、新鮮な野菜、果物、手工芸品などを販売している。月曜日の午前から土曜日の夕方まで開いている。

戦争の遺跡

サント島には第2次世界大戦時に10万人の将兵が集まる巨大な米軍基地があった。かまぼこ型兵舎、飛行場跡地、ミリオン・ダラー・ポイント（当時の兵器などの廃棄場所）、B17爆撃機の残骸など遺跡めぐりができる。またWWIIミュージアムがルーガンビルマーケット横に2018年にオープンした。

ルウェトン村

Leweton Culture Village

伝統的風習と文化が残る村を訪ねるツアーが楽しめる。酋長とダンスによる出迎えが行われる。サント近隣の島々に伝わる伝統的な音楽（ウォーターミュージック）の演奏を見ることがもできる。



ウォーターミュージック

ミュージカル「南太平洋」

スランダは三日月型をした小さな湾に面した海岸で、この一帯には戦時中のアメリカ軍やニュージーランド軍のキャンプがあった。村を少し北に向かった右手の浜辺に大きな木があり、これに隠されるように当時の建物が残っている。1956年に初演されたアメリカのミュージカル「南太平洋」に出てくるブラディー・メアリーは実在の女性で、その舞台となった売春宿が今も残っている。戦時中は丘の上に野戦病院があり、回復した兵士たちが戦場に戻る前にここを訪れた、と伝えられている。ここは私有地であり、見学するにはツアーに参加することになる。スランダからルーガンビルへは内陸を走る近道があり、この途中に戦時中のアメリカ軍放送局跡がある。

サント島アクティビティ

サント島への日帰りツアーがポートビラから出ているほか、サント島のリゾートやホテル、旅行代理店でも独自のツアーを企画している。バヌアツ屈指のダイビングポイントがルーガンビル周辺だけでも20数箇所あり、ダイビング好きには欠かせない。また、ブルーホールとシャンパンビーチを巡るツアーも必見。冒険心いっぱいの本格的なトレッキングも楽しめる。

●ブルーホールとシャンパンビーチ満喫ツアー

ジャッキーズ・ブルーホール、リリ・リバー・ブルーホール、シャンパンビーチ、

ポートオイリーでの昼食を含めた欲張りツアー。主要なホテルからツアーバスに乗り込むだけで、サント島の外せないスポットを一日で巡ってくれる。

●トレッキング

一押し of トレッキングスポットは『ミレニウムケープ』。日帰りでのトレッキングで、川を渡ったり急な斜面をよじ登ったりと、かなりハードなコース内容となっている。サントの大自然に隠された洞窟があり、多くのコウモリが息息する景色は圧巻だ。ミレニウムケープは体力的に厳しい、という方には、気軽な日帰りのバットマンケープツアーもある。コースの起伏はそこまで激しくなく、最終地点の洞窟までも行きやすい。2泊3日をかけ一般の村に宿泊しながらの本格トレッキング、あるいは4泊5日でサント島唯一のカストム村を訪ね歩くハードなトレッキングツアーもある。

●ダイビングとシュノーケリング

サント島の目玉はダイビング。レックダイブやコーラルダイブに適した場所が数多くある。特にルーガンビルの沖合いに浮かぶアオレ島とツツバ島、さらに南のマロ島の周辺にはダイビングやシュノーケリングに適したスポットが数多い。

プレジデント・クーリッジ

President Coolidge

豪華客船クーリッジがルーガンビルの湾内に沈んでおり、世界で最も近づきやすいレックダイブのポイントとして知られる。



プレジデント・クーリッジ



プレジデント・クーリッジ

1942年10月26日、全長200m、幅25m、総トン数22,000トンの客船がアメリカ軍の2つの機雷に接触して沈没した。プレジデント・クーリッジはアメリカ軍に徴用されており、5,000人以上の兵隊を運んでいた。

ミリオン・ダラー・ポイント

Million Dollar Point

クーリッジ・ポイントの東約2km、アメリカ軍が数千トンの器材を捨てた場所がある。水深0mから40mまでにブルドーザーや飛行機のエンジン、ジープ、トラックなどが沈んでいる。アメリカ軍はバヌアツを統治しているイギリスやフランス政府に買取りを依頼したが満足な回答が得られなかったことから、撤退後に勝手に使用されることを嫌いこの場所に破棄していった。浅瀬にも散乱しているので誰にでも見ることができる。

シンディーズリーフ

Cindy's Reef

アオレ島にあり、リーフ枝珊瑚や大きなテーブルサンゴなどバラエティーに富んだ美しいハードコーラルが延々と続く。そのリーフの周りにはさまざまなトロピカルフィッシュの群れが集まり、ドリフトしながら眺めることができる。

チャールズリーフ

Chails Reef

ツツバ島にあり、18mまでの浅瀬はリーフ、ハード・ソフトコーラルなど様々な珊瑚と美しいトロピカルフィッシュに囲まれ、40mのドロップオフもある。

ツツバポイント

Tutuba Point

ツツバ島のポイントで、リーフ、ハード・ソフトコーラル、地形が美しく、透明度が良い。バラクーダの群れやナポレオンフィッシュなどが見られることもある。

USS・タッカー

USS Tucker

モロ島の西、深度約20mにあり、クーリッジの沈む3ヶ月前、機雷に当たって沈んだアメリカの駆逐艦。

ヘンリー・ボナード

Henry Bonneaud

1989年にレックダイブのために沈められた貨物船で、水深30～40mに横たわっている。いまでは多様な魚の住処であり、ソフトコーラルが美しい。ナイトダイブもできる。

●乗馬

バナアツーの大きなベルモル牧場で美しいラグーンやビーチ、バニアンの木の森を探索しながら3時間掛けて乗馬を楽しむ。



水中乗馬

ホテル（サント島）

サント島の主要都市ルーガンビルにはビジネスホテルや比較的安価なモーテルが集中している。サント東部の海沿いや離島には高級ビーチリゾートホテルもある。ラグジュアリーな部屋を好む人には、綺麗なビーチ沿いのホテルがおすすめ。

ルーガンビル・ビジネスホテル

Luganvilla Business Hotel, Tel:36498,
E-mail: bookings@luganvillasanto.com,
URL: <https://www.luganvillasanto.com/>

ペコア国際空港から車で10分、ルーガンビルのメインストリート沿いにあるホテル。ダブルルーム、ツインルームなど30部屋もあるのが特徴。本格的な中華レストランも併設されている。



ルーガンビル・ビジネスホテル

ザ・エスピリッツ

The Espiritu, Tel:37539,
E-mail:book@the-espiritu.com,
URL: <http://www.the-espiritu.com/>

ペコア国際空港から車で10分、ルーガンビルのメインストリートの中心部にあるホテル。一般的なビジネスホテルタイプの



ザ・エスピリッツ

部屋からファミリー向けの部屋もある。レンタカーもここで借りることができる。またダイビング会社のオフィスも館内にある。

アオレ・アイランド・リゾート

Aore Island Resort, Tel: 36705,
E-mail: aore@vanuatu.com.vu,
URL: <https://aoreislandresorts.com/>

ペコア国際空港から車で10分の位置にあるBPワフ（船乗り場）からボートで10分程で到着する離島の高級リゾート。ルーガンビルの街並みが見えるほどの距離にあるアオレ島にあり、手付かすの自然とビーチの間にビラタイプの部屋が点在する。島内でのサイクリング、目の前の海ではシュノーケリングが楽しめる自然豊かなリゾート。



アオレ・アイランド・リゾート

バリア・ビーチ・リゾート

Barrier Beach Resort, Tel: 7105360,
E-mail: bookings@barrierbeachresort.com,
URL: <https://www.barrierbeachresort.com/>

ペコア国際空港から車で20分程北上した東海岸沿いにある高級リゾート。ハネムーン向けのラグジュアリービラタイプの部屋もあり、目の前には白砂ビーチが広がる。閑静な森に囲まれた雰囲気の良いリゾート。



バリア・ビーチ・リゾート

タートルベイ・ロッジ

Turtle Bay Lodge, Tel: 37988,
E-mail: stay@turtlebaylodge.vu,
URL: <http://www.turtlebaylodge.vu/>

ペコア国際空港から車で1時間程北上した場所にあるリーズナブルなホテル。目の



タートルベイ・ロッジ

前に海が広がり、ブルーホールにも至近のため、サント島の名所を満喫するには絶好のロケーション。テントをモチーフにしたユニークな部屋もある。

●その他宿泊施設（サント島）

ルーガンビル中心街には価格が抑えられた安宿もいくつかある。バックパッカー向けの宿泊施設を求める場合は以下のホテルを参考にすると良い。

ホテル名	（英語名）	電話	URL
ユニティ・パーク・モーテル	Unity Park Motel	36052	http://www.unityparkmotel.com/
ニモ・モーテル	Motel Le Nemo	37991	

レストラン

サント島には観光客向けのレストランは多くない。ホテル内のレストランで食事してもらうのが一般的。

◆必見コラム ～森の薬局!? 「タマヌオイル」～

サント島の東側ビーチ沿いを歩いていると、ピンポン玉サイズの丸い黄緑色をした実が生るタマヌツリーという木をよく見かける。ビーチにも茶色に変色した実が落ちている。その実から採れる希少なオイルの効能が非常に優れており、伝統的な薬として使われてきた。殺菌作用や抗菌作用が強く、怪我した患部に少し塗るだけで治りが早いと言われる。近年では美容への効果も見直され、日本でも注目を浴びているのがタマヌオイルだ。



タンナ島

タンナ島はバヌアツ南部にある人口約30,000人の火山島で、面積は549m²である。標高361mのヤスール山(Mt. Yasur)は、世界でも最も簡単に見学ができる活火山として知られており、バヌアツ観光の名所として非常に人気が高い。黒い火山灰高原を4WDで走り到着した地点から徒歩で10分足らずで火口の淵まで辿り着くことができる。特に夜は、火口から噴き出す真っ赤な溶岩が目を奪う。

1774年、キャプテン・クックが来訪し火山への登頂を求めたが、住民の聖地であったため拒否されている。それ以来、タンナ島の

住民はキリスト教の浸透を頑なに拒み、彼らの伝統的な習慣と文化を今もなお維持し続けている。1年に1回行われるヤム・フェスティバル、割礼の儀式と結婚式、ユニークな顔のペインティングなどはその代表的なものである。

島は雨が良く降るが、気温が低いので比較的過ごし易い。肥沃な中央部ではバヌアツの特産である「タンナ・コーヒー」を始めとするバラエティーに富んだ野菜・果物が採れる。



美しくペイントした女性

タンナ島のみどころ

生ける活火山ヤスール火山

Yasur Volcano

標高361mの活火山で島の南東に位置し、世界でも最も近づきやすい活火山である。何世紀もの間降り続いた火山灰が、月面に似た巨大で荒涼とした砂丘を造り上げ



ヤスール火山全景



噴火するヤスール火山

た。火口の淵まで上ると、溶岩が吹き上げる大迫力の光景を目にすることができる。火山の麓にある世界で唯一の火山ポストから「ヤスール火山の絵葉書」を投函することもできる。

ヤスール火山温泉

Yasur Volcano Hot Springs

ヤスール火山から車で15分程のところにあるサルファベイ村に温泉がある。村を流れる川のおちこちから温泉が湧き出ている。入湯料を払い、水着を着用すれば誰でも入ることができる。そこから眺めるヤスール火山はまるで原始時代に戻ったかのような風景。



ヤスール火山温泉

❖必見コラム ～神のお告げか!? 「スモークリング」～

この火山では様々な条件が重なった時だけスモークリングと言われる希少な現象が起きる。口からたばこの煙の輪を作ったような形状からこの名前が付けられた。突発的な爆発、雲が無い快晴、無風の山頂、などの条件が重なった時にだけ起こる現象。現地タンナ民族の間では、このスモークリングは身内や家族の訃報を知らせる神のお告げだと考えられており、これを目にした地元民は慌てて家族の元へ帰るらしい。10年に1度あるかないかの珍しい現象だ。

青の洞窟ブルーケーブ

Blue Cave

タンナ島の北部にあるブルーケーブへはホワイトグラス・リゾートからボートでしか行けない。この海中洞窟内部の直径は60m。中央上部に5mの穴が開いており、ここから差し込む光で海水が様々な青色に変化していく。海の中にぽっかりと開いた入り口からシュノーケリングで潜りながら洞窟内へ入っていくしかない秘境である。



ブルーケーブ

ネコウィヤー・セレモニー

Nekowiar Ceremony

バヌアツの文化行事の中でも最も素晴らしいものの一つで、周辺の部族が集まり3日間もの間繰り広げられ、贈り物の贈呈式、カスタム・ダンス、祝宴からなる。男性による「トカ」(Toka)の儀式は、3年か4年



ネコウィヤー・セレモニー

に1回だけ夜通し行われる最も強烈なダンスである。

カスタム村

Kastom Villages

タンナ島のカスタム村の一つを訪れてみよう。彼等の厳しい「カスタム」(Kastom)信仰に基づき続いてきた自給自足の社会を基本に、西洋文明に侵されていない生活を覗くことが出来る。裸族の衣装、狩猟の方法、伝統的なダンスの見学ができる。村によっては手工芸品も購入できる。



カスタム村

巨木バニアンの木

Giant Banyan Tree

ホワイトグラス空港から車で40分の内陸部に世界最大級のバニアンの木がある。



バニアンツリー

タンナ島の各村の集会所には必ずバニアン
の木があるが、比較できないほどの大きさ。
森のように大きく広がった枝木のトンネル
を抜けて、最深部の観賞もできる。

ジョン・フラム村

John Frum Villages

東海岸のサルファー湾 (Sulphur Bay)
および西海岸のイマナカ (Imanaka) の村で
行われる住民による「ジョンフラム運動」
と呼ばれる宗教運動で、大洋州に散在する
「カーゴ・カルト」(積荷信仰) の一つで
ある。この運動はその昔アメリカ人が豊富
な物資を持ち込んだ時期に始まり、住民は
「いつの日かジョン・フラムと言う人がやっ
て来て、キリスト教やヨーロッパの影響か
らメラネシア人を救い、富 (缶詰、タバコ、
トラック冷蔵庫など) をもたらしてくれる」
と信じており、今でもジョンの来訪を願っ
て金曜日に音楽や踊りでお祭りを行う。

ポート・リゾリューション

Port Resolution

南東の海岸は水深が深いヨットのハー
バーになっている。1774年に来航した
キャプテン・クックが命名した場所で宿泊
することもできる。



ポートリゾリューション

タンナ島アクティビティ

●ヤスール火山見学ツアー

有名なタンナ島のヤスール火山を見学す
るツアー。主要なホテルを昼過ぎに出発し、
車で片道2～3時間かけて火山を訪れるツ
アー。舗装されていないこぼこ道を走り、
火山灰の砂漠の上を疾走するなど、道中も
楽しみ要素が満載。火口の淵まで登ること
ができ、溶岩の吹き出す様や、ドーンと大
きな音を立てて噴火する様子を間近で見学
できる。夕方から夜にかけて少しずつ噴火
の様子が変わってくるので、多くの写真を
撮っておきたい。

●乗馬

タンナ島の中心の町レナケルに、乗馬ツ
アーを催行する宿泊施設マンミマールロッ
ジがある。丸一日かけてヤスール火山が見
渡せる場所まで乗馬で行くツアーはジャン
グルの中を長時間進むのでそれなりにハー
ドな乗馬だ。また、ヤスール火山入山口か
ら出発し火山灰に覆われた麓を散歩できる
乗馬体験もある。こちらは比較的楽なので
おすすめ。

●ブルー・ケープでのシュノーケリングツアー

ホワイトグラス空港から2km北にあるホワイトグラス・リゾートが出発地点。そこから船で45分のところにある海中洞窟ブルーケープへ行くツアー。神秘的な洞窟の青さに魅了されながらシュノーケリングを楽しむ。

●ダイビング

ホワイトグラス・リゾートにはダイビングショップがある。手付かすのタンナ島のダイビングポイントを潜れるのはこのショップだけ。ブルーケープ内のダイビング体験もできる。シュノーケリングとは違った洞窟の様子をダイビングで観賞できる。非常に珍しいダイビングポイントだ。



ブルーケープダイビング

ホテル (タンナ島)

タンナ島にはリゾートホテルと呼べるところは3つしかない。いずれもタンナ島西側海岸沿いにある。予算の抑えられたバンガロータイプの宿泊施設は多数あり、安宿を泊まりたい方には向いている。

ロックウォーター・リゾート

Rockwater Resort, Tel: 5651300,
E-mail: res@rockwaterresort.com,
URL: <https://www.rockwaterresort.com/>

ホワイトグラス空港より車で20分程北上した所にある2018年にオープンしたばかりの高級リゾート。石造りを基調としたハネムーン向けラグジュアリータイプの部屋もある。目の前には水平線が広がり、夕方から夜にかけてのサンセットはロマンチックな雰囲気を醸し出す。



ロックウォーター・リゾート

ホワイトグラス・リゾート

Whitegrass Resort Ocean Resort & Spa,
Tel:30010, E-mail: Info@whitegrasstanna.com,
URL: <https://www.whitegrasstanna.com/>

ホワイトグラス空港から車で5分程の所にあるリゾートホテル。海に面しておりハネムーン用から家族用と様々なビラタイプの部屋がある。リゾート内ではスパ体験もできる他、タンナ島唯一のダイビングショップがある。



ホワイトグラス・リゾート

タンナ・エバークリーン・リゾート

Tanna Evergreen Resort & Tours,
Tel:5588847, E-mail: reservations@tannaevergreenresorttours.com, URL: <https://www.tannaevergreenresorttours.com/>

ホワイトグラスリゾートに隣接するリゾートホテル。バックパッカー用のリーズナブルなシェアルームからハイクラス向けの部屋まで幅広く備えている。



タンナ・エバークリーン・リゾート

ヤスール・ビュー・ロッジ

Yasur View Lodge, Tel: 5686025,
E-mail: yasurviewlodge@gmail.com,
URL: <https://yasurlodge.com/>

ホワイトグラス空港から車で2時間。ヤスール火山の目の前の宿泊施設。火山入山口まで歩いてたったの1分。巨木の上に作

られたツリーハウスが特徴で、価格もリーズナブル。また火山に至近のことから、午前3時頃に出発する早朝火山ツアーも楽しめる。夕方の火山とは異なる景色を見せてくれるので両方参加するのがおすすめ。



ヤスール・ビュー・ロッジ

●その他宿泊施設（タンナ島）

タンナ島には現地の人が運営するバンガロータイプの安宿もある。バックパッカー向けの宿泊施設を求める場合には、以下のホテルを参考にすると良い。

ホテル名	(英語名)	電話	ウェブサイト
アロハ・ビーチ・バンガロー	Alofa Beach Bungalows	5351632	
マンミマル・ロッジ	Manmimar Nature Lodge	7741400	http://www.manmimar.com/

レストラン

観光客向けのレストランはない。ホテル内のレストランで食事してもらうのが一般的。

関係先リスト

大使館

●在バヌアツ日本国大使館

PO Box 242, Rue de Paris, Port Vila, Vanuatu
※National Bank隣, Air Vanuatuが一階にあるビルの3階部分
Tel: (678) 29393 Fax: (678) 29934
URL: <https://www.fj.emb-japan.go.jp/jointad/vu/ja/index.html>

貿易・投資コンタクト先

●Vanuatu Foreign Investment Promotion Agency (VFIPA)

P.O.Box 9011
Tamarama Building, Lini Highway, Port Vila, Vanuatu
Tel: (678) 24096 /24441
Email: investment@vipa.org.vu
URL: <https://www.investvanuatu.vu/contact-us/>

●Vanuatu Chamber of Commerce and Industry

P.O.Box 189,
Rue de Paris Street, Port Vila, Vanuatu
Tel: (678) 27543
Email: reception@vcci.vu
URL: <https://vcci.vu/>

観光コンタクト先

●Vanuatu Tourism Office (VTO)

P.O.Box209, Ground floor, Pilioko House, Lini Highway, Port Vila, Vanuatu
Tel: (678) 22 685/22 813/22 515 Fax: (678) 23 889
E-mail: tourisum@vanuatu.com.vu
URL: <https://www.vanuatu.travel/en/index.php>

●サウス・パシフィックツアーズ

P.O.Box 1534, Melanesian Hotel, Lini Highway, Port Vila, Vanuatu
E-mail: sptvila@melanesian.com.vu(日本語可)
URL: <https://gogovanuatu.com/>

●日本バヌアツ親善協会

千葉県船橋市本町6-3-16 レックスマンション203号
E-mail: sptvila@melanesian.com.vu(日本語可)
URL: <http://jvgs-npo.com/>

PICの著作物に関しては、無断での複写・複製・転載はお断りしています。
さらに、転売・出品も禁止とさせていただきます。

バヌアツ共和国

発行日：2009年2月1日 初版発行

2020年12月1日 改訂

発 行：国際機関 太平洋諸島センター（PIC）

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-22-14 明治大学紫紺館1F

電話：03-5259-8419 FAX：03-5259-8429

E-mail：info@pic.or.jp

URL：http://www.pic.or.jp

VANUATU

